

H30年漁期の底びき網漁業の漁模様

今回は、平成30年漁期（平成30年9月～令和元年6月）の本県沖の底びき網漁業（沖底・小底）の漁模様について報告します。漁獲量の集計は漁獲管理情報処理システムで行い、銚子水揚げ分も含めて集計しました（一部未集計部分もあります）。

1. H30年漁期の水揚げは、約2,500トン、12.9億円

平成30年漁期の水揚げ量は約2,500トン、金額は12.9億円となり、前年より漁獲量は減ったものの、金額は増加しました（図1）。震災以前は約2,000トン、約7～10億円前後で推移していましたが、震災後は約2,500トン超、12億円以上の水準にあり、H30年漁期はその水準を若干下回りましたが高い水準は続いています。

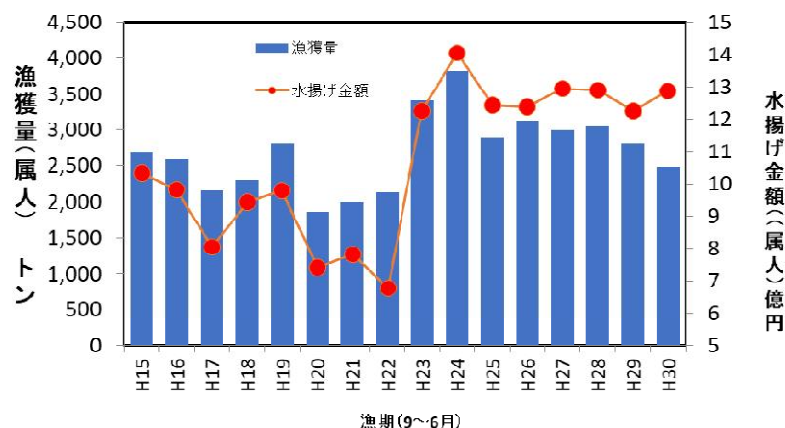


図1 底曳網の漁期別漁獲量と金額

2. 漁獲量の多い魚種

平成30年漁期に漁獲量が多かった上位5魚種は、1位やりいか738トン（前年495トン、1位）、2位あなご203トン（同215トン、3位）、3位めひかり191トン（同282トン、2位）、4位みずだこ114トン（同175トン、5位）、5位ひらめ104トン（同186トン、4位）でした（図2）。昨年と比べるとヤリイカは増加、その他4種は減少となりました。金額で見ると上位5魚種は、やりいか、なまこ、めひかり、ひらめ、あなごの順となりました。なまこは平成29年の秋以降、銚子で高値取引され30年漁期も継続して漁獲されました（漁獲量は42トン11位）。

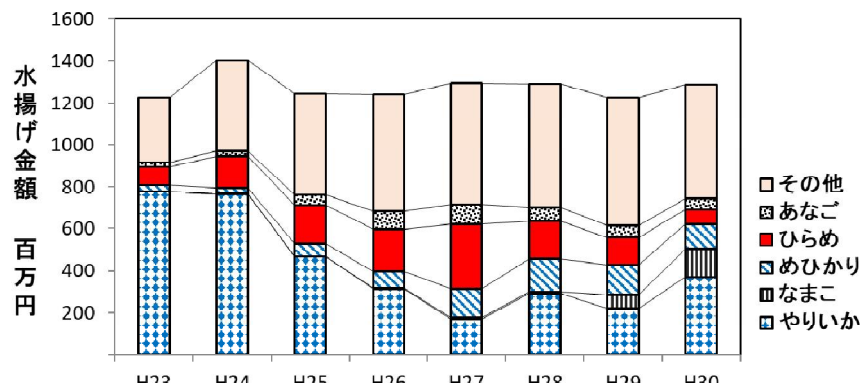
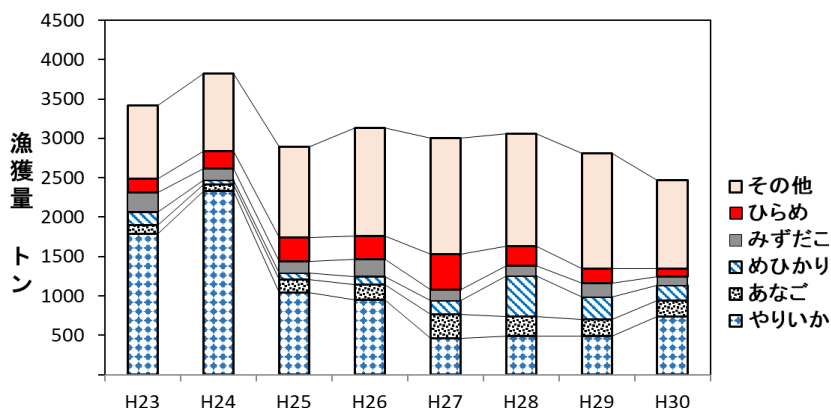


図2 水揚げの多い魚種の漁獲量と金額

3. 東北海域のヤリイカの動向

ここ数年のヤリイカの漁獲量（属地）を千葉から宮城の海域で見ると1,500～3,500トンの間で変動しています（図3）。H28年以降、宮城県の漁獲量が多くなっています。茨城県船の漁場となる海域では1月より漁獲量が増加し、2月以降、銚子への水揚げが多くなり、4月中旬まで続きました（図4）。同海域（千葉県船の銚子揚げ分を含め）での漁獲量は約1000トンとなり、H29年（600トン）の1.7倍となりました。

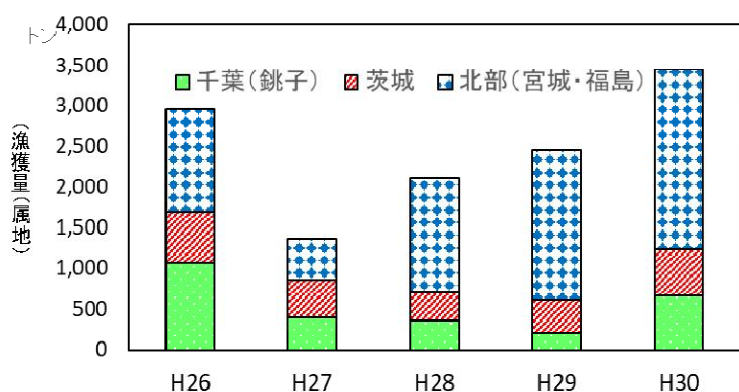


図3 最近の東北海域でのヤリイカの漁獲量

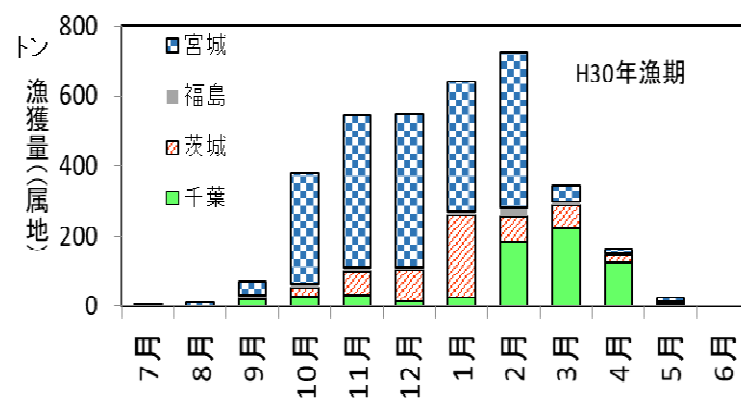


図4 各県の月別漁獲量